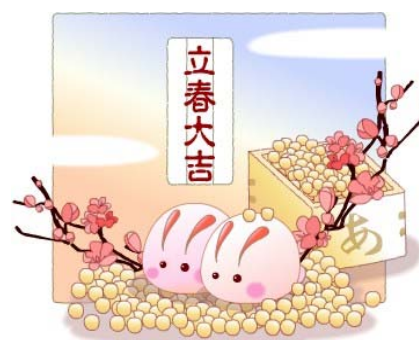


立 春 大 吉

主幹教諭 中村 昌子

先週、関東地方でも雪が降り、まだまだ寒い日が続いています。去る1月24日（土）に本校で研究発表会を開催いたしました。PTA常置委員の皆様には寒い中で様々な面でお力添えをいただきました。参会者の皆様のアンケートには、「保護者の方の対応が温かく、丁寧で安心して参観することができました。」といったコメントが多数寄せられています。皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。子どもたちもたくさんの参観者の前で少し緊張している様子も見られましたが、生き生きと発言をしたり、活動したりすることができ、大衆の子どもたちのよさを多くの先生方に見ていただけたことをうれしく思っております。登下校など時間が変則的になりましたが、保護者の皆様のご理解とご協力に厚く御礼申し上げます。

さて暦は2月になり、明日は節分、そしてその翌日は立春です。ご存じの方も多いと思いますが、日本には「二十四節気」という季節の分け方があります。もとは中国から伝わったものですが、その後日本の季節に合わせて現在のものに整えられたようです。「立春」もそのうちの一つであり、「立春」から「立夏」の一日前までが暦の上での「春」となるそうです。いわば春の第一日目ということなのでしょう。「春」といっても「初日」のわけですから、実際は寒さが頂点の時期で、これ以上寒くなるのではなく、ここから少しずつ春にむけて季節が動い



ていくと考えられたそうです。そして節分は、春を迎え邪気を払うための行事として位置付き、鬼を追い出すため豆まきをするのだそうです。豆まき以外にも、鰯の頭を柵にさして、玄関に飾るという慣習もありますね。今は「恵方巻き」がポピュラーになっていろいろなところで宣伝されていますが、やや商業主義な感じがして、興ざめしてしまいます。

もう一つこの時期には「立春大吉」というお札を見つけることがあります。これは禅宗のお寺の習慣からきている厄除けのお札です。まず「立春大吉」という文字を見て、何か気付くことがありますか。全ての文字が縦半分におると左右対称にできています。ですから墨でこの文字を書くと裏側にもしみて、裏側から見ても同じ「立春大吉」と読めるわけです。この文字を書いた札を家の門に飾っておいたところ、家に入ってきた鬼が後ろを振り向き、まだ門の外にいと勘違いして、外に出て行ってしまったという話が伝えられているそうです。ですから、立春に「立春大吉」と書いたお札を家の前に貼ると一年間を平穏無事にすごすことができるとされています。

昔の人たちは、季節の変化を大切に感じ、その中で健康で穏やかに暮らしていられるように様々なことを工夫していたことが分かります。二十四節気には様々な季節の慣習や言い伝えが残されています。「グローバル社会に生きる力」の一つとして、こうした日本の伝統を知ること、そのよさを伝えられることも必要なことだと思います。何でも便利で効率的に暮らしていただくだけではなく、伝統的な季節の行事にゆっくりと浸ってみませんか。